

パースペクティブ科目

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
人間社会展望 (歴史学概論で読み替え)	パースペクティブ	1	必修	前期	2	太田英比古

- ◇講義目的◇ <テーマ>「日本の政治や社会の変遷を実証的に考察し、将来を展望したい」
 <目標>史料講読を通じて日本史の研究方法を学び、併せて歴史学習の今日的意義を考える。
 <概要>日本の歴史の、大きな政治や社会の転換期を中心に概観したい。それは、7世紀末の律令国家（古代天皇制国家）の成立であり、12世紀末の武家政権（中世国家）成立であり、16世紀後半から17世紀初頭にかけての織豊政権・江戸幕府（近世国家）の成立であり、19世紀後半の明治維新から帝国憲法発布までの明治国家（近代天皇制国家）の成立であろう。そして、第2次世界大戦の敗戦により国民主権国家として出発し、今日に至っているのである。又、特に転換期の前提条件とその帰結を重視したい。

◇授業内容◇

第1回	日本史を学ぶ目的。史学研究法概論
第2回	農耕社会の形成 —縄文時代から弥生時代へ（小国家の成立）—
第3回	東アジア情勢と律令国家の成立 —古代天皇制国家の成立—
第4回	承平・天慶の乱の史的意義 —中世的世界へ—
第5回	平安王朝と藤原摂関家
第6回	治承・寿永の騒乱と鎌倉開幕 —中世国家の成立—
第7回	元寇と荘園経済の発展 —鎌倉幕府の衰退—
第8回	室町幕府の権力基盤 —応仁の乱から戦国時代へ—
第9回	織豊政権と江戸開幕 —近世国家の成立—
第10回	幕藩体制の成立と江戸文化 —農民の生活と関連して—
第11回	欧米列強のアジア進出と明治維新
第12回	明治国家の成立 —大日本帝国憲法の発布と近代天皇制国家の成立—
第13回	帝国主義の時代 —第1次・2次世界大戦と日本—
第14回	国民主権国家の成立（日本国憲法の発布）とその後の日本
第15回	講義のまとめ —「温故知新」の今日的意義—

- ◇成績評価◇ 定期試験に出欠を加味する。

- ◇使用教材◇ 『日本史年表 第四版』（岩波書店刊のものが一般的であるが、他の出版社のものでも可）。又、講義の進行に合わせて、関係史料のプリントを配布する（『史料による日本の歩み・古代編・中世編・近世編・近代編』の該当条）。

◇特記事項◇

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
心理臨床展望 (心理学概論で読み替え)	パースペクティブ	1	必修	前期	2	末松 渉

◇講義目的◇ 科学的学問としての心理学は、19世紀中ごろに始まっている。心理学にどのような領域があるのか、どのようなテーマが取り上げられているのかを概観し、それらが日常生活に密接に関連していることへの気づきに誘う。同時に、専門的学習を深めるための基本的・基礎的知識を学ぶ。

◇授業内容◇

第1回	オリエンテーション；科学的学問としての心理学小史及び科学的方法について
第2回	感覚・知覚について；われわれは、どのように周りの刺激を感覚として体験するか。
第3回～第4回	学習・記憶について；われわれは、どのように思考や行動を身につけ、継続しているか。
第5回	動機付けについて；われわれは、なぜ今の行動をとっているのか。
第6回～第7回	感情について；われわれの人生に幅と深みを与える感情とはどのようなものか。
第8回～第9回	発達について；われわれは、一生を通して、どのように育ち、発達し、変化していくのか。
第10回～第11回	パーソナリティ・知能について；自分らしさ、その人らしさとは何か。
第12回～第13回	心の健康について；環境に適応している状態・不適応の状態とはどのようなことをいっているのか。
第14回	社会心理学について；他の人たちとの関わりは、我々の思考や行動にどのように影響しているか。
第15回	現代心理学の課題について；生物学的・生理学的行動理解など、心理学の最近の動向を概観する。

◇成績評価◇ 試験の成績及び出席状況により評価する。

◇使用教材◇ 参考書は、適宜講義の中で紹介する。

◇特記事項◇

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
総合経営展望 (経営学で読み替え)	パースペクティブ	1	必修	前期	2	横山敬子

◇講義目的◇ 経営学を始めて体験する学生のために用意された科目である。組織に勤める際に知っておくべき経営学の基礎知識をこの授業を通して、学んでいく。具体的には組織とはいかなるものか、その中で組織の運営とはいかなるものなのかを感じ取ってもらうのが最終目的である。

◇授業内容◇

第1回	経営学とは何か
第2回	企業形態（合名・合同・合資会社）
第3回	企業形態（株式会社）
第4回	企業集中形態（カルテル、トラスト）
第5回	企業集中形態（コンツエルン）
第6回	日本の企業集中形態の歴史
第7回	多国籍企業、コングロマリット
第8回	所有と経営の分離
第9回	コーポレートガバナンス（信任義務）
第10回	アメリカにおけるコーポレートガバナンスの変化
第11回	コーポレートガバナンスの実際（株主代表訴訟）
第12回	コーポレートガバナンスの実際（取締役会、監査役会）
第13回	コーポレートガバナンスの実際（日米の違い）
第14回	経営学のまとめ
第15回	経営学のまとめ

◇成績評価◇ 定期試験、出席状況などで総合的に評価する。

◇使用教材◇ 適時プリントを配布する。

◇特記事項◇

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
経営情報展望 (情報処理概論で読み替え)	パースペクティブ	1	必修	前期	2	五藤寿樹

- ◇講義目的◇ IT（情報技術）の普及により、経営や行政の組織経営における情報活用が飛躍的に増大しています。現代における組織経営ではITが、きわめて重要な要素となっています。
本講では、この情報技術についての基礎的な事項（ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク）について学習します。

◇授業内容◇

第1回	ガイダンス 本授業の概要と今後の進め方について説明する
第2回	入出力装置（入力装置） 入力装置にどのようなものがあるかを理解する
第3回	入出力装置（出力装置） 出力装置（ディスプレイ装置・プリンタ装置）にどのようなものがあるかを理解する
第4回	記憶装置 記憶装置（主記憶装置・補助記憶装置）には、どのようなものがあるかを理解する
第5回	コンピュータシステム コンピュータは、どのような装置でできており、どのように動作するかを理解する
第6回	コンピュータ等のカタログの読み方 パソコン等のカタログの読み方を理解する
第7回	ソフトウェア ソフトウェア概念について理解する
第8回	表計算ソフト・データベース 表計算ソフト・データベースの概念について理解する
第9回	日本語情報処理 コンピュータで日本語を扱う環境について学習する
第10回	インターネット（1） 電子メール、ネチケット、メーリングリスト、ウイルスについて学ぶ
第11回	インターネット インターネットの歴史とホームページを中心とした発展を学習する
第12回	インターネット検索 検索エンジンを使って情報検索する方法を学習する
第13回	本科目のまとめ

- ◇成績評価◇ 講義授業ごとに行う小テスト（60点）と、学習態度（40点）により評価する。

- ◇使用教材◇ プリント教材を配布する。

- ◇特記事項◇ 開講時に詳細は説明しますが、本授業は基本的に遅刻は認めません。

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
国際秘書展望 (秘書学概論で読み替え)	パースペクティブ	1	必修	前期	2	北垣日出子

◇講義目的◇ 「秘書」ということばは誰もが知っているが、秘書の仕事について正しく理解されているとは限らない。また、秘書は女性の仕事と思われがちだが、日本には秘書として活躍している男性も多い。本講座では、秘書を、歴史、働く組織や働く形態、職務、求められる資質や能力など、さまざまな角度から眺め、秘書という仕事を一つのモデルとして組織の中で働くことの意味を考えていく。「秘書検定試験」の「資質・職務・一般知識」の領域に対応している。

授業内容	
第1回～第2回	『秘書とは何か』 「秘書」という言葉は誰もが知っているが、その実態は十分に把握されていない。ビデオを見ながら秘書の役割と職務を概観し、秘書理論を学ぶ意義を考えていく。
第3回～第4回	『秘書の歴史』 秘書という仕事はいつ頃から存在し、どのような役割が期待されていたのだろうか。また、どのような人が、どのような立場で、どのような業務に携わっていたのだろうか。日本と外国の歴史に登場する秘書的役割にスポットを当てて秘書の普遍的側面と可変的側面について考える。
第5回～第7回	『秘書の職能と形態』 秘書が所属する組織形態と働く形態について概観した後、多種多様な秘書の仕事を体系化しながらその職能を考えていく。また、日本の秘書と欧米の秘書とを比較して、組織形態、コミュニケーションのあり方や意思決定についてそれぞれの特性を学ぶ。
第8回～第10回	『秘書の資質と人間関係』 対人関係業務が多い秘書が、秘書としての職能を遂行していくためにはどのような資質と能力が求められるのか、また職務上の人間関係を円滑に保っていくためにはどのような配慮とコミュニケーション能力が期待されているのかについて、時代の変化を踏まえながらケーススタディを通して具体的に考えていく。
第11回～第12回	『オフィスが変わる』 グローバル化、IT化が進み、オフィス環境も大きく変化してきている。上司と社内外関係者とのコミュニケーションのパイプ役としての機能を持っている秘書にとって、電子メールをはじめとする電子コミュニケーションの導入は、日々の仕事に大きな影響を与えている。オフィスの電子コミュニケーションの実情を学び、グローバル化・IT化時代に求められる実務能力について考える。
第13回～第14回	『秘書の特性』 今までに学んできた秘書という仕事を、一般職の仕事と比較しながら、秘書の特性を考える。そして秘書について学ぶことの普遍性について考えてまとめたい。

◇成績評価◇ 平常点（出席、受講態度）、レポート、試験による総合評価。

◇使用教材◇ 教科書は特に指定せず、書き込み形式のレジユメを配布する。参考書は適宜紹介する。

◇特記事項◇ 特になし。

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
美学芸術展望 (芸術学総論で読み替え)	パースペクティブ	1	必修	前期	2	複数教員

◇講義目的◇ 芸術を探究する芸術学の基礎を学ぶ。前半は西洋音楽史（オペラ）を、後半では演劇史をあつかう。芸術は感性で楽しむものであるというのはある面での真実ではあるが、楽しむためには作品の構造や歴史的背景などいくつかの点に配慮すべきこと、時代によって異なる価値が追求されることなどを述べる。

◇授業内容◇

第1回	イントロダクション：授業の意図の説明。オペラの描く人間像。
第2回～第3回	バロック・オペラから モンテヴェルディ《ウリッセの帰還》。
第4回～第5回	古典派のオペラから モーツァルト《コジ・ファン・トゥッテ（女はみんなこうしたもの）》。
第6回～第7回	20世紀のオペラから ストラヴィンスキー《放蕩者の遍歴》。
第8回	これまでのまとめと課題。（以上、飯森。第1回目のみ安田も参加。）
第9回	1. ガイダンス。授業の内容や方法に関する説明。 2. 「演劇の独自性」について。
第10回	1. 「演劇が描き出すもの Part I（悲劇の人間観）」について。 2. ギリシア古典悲劇。
第11回	1. 「演劇が描き出すもの Part II（喜劇の人間観）」について。 2. フランス古典喜劇。
第12回～第13回	1. 「演劇の構造」について。 2. 現代日本演劇。
第14回	1. 「複製技術の時代の演劇」について。 2. ミュージカル。
第15回	テスト（以上、安田）

◇成績評価◇ 出席点、平常点、および授業時間中の試験等の成績によって判断する。

◇使用教材◇ 必要に応じて授業内で指示し、資料を配布する。

◇特記事項◇

科 目 名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
国際文化展望 (ヨーロッパの生活と文化で読み替え)	パースペクティブ	1	必修	前期	2	阿部雄一

◇講義目的◇ 現代の世界情勢は混沌とし、個人生活においてもあるべき行動の指針が見出せない今、私たちは何に基準を求めればよいのだろうか。これからの世界の中心はアメリカかアジアか。だが忘れてならないのは、現在の私たちの世界がヨーロッパ人の感覚と知性を土台にして築き上げられていることだ。音楽や美術さえ、私たちはヨーロッパ・スタンダードを無視してはほとんど身動きがとれず、また一言も語れないまでになっている。本講座では、そのようなヨーロッパが形成された地理・歴史・ものの考え方・感じ方をともに考え、また具体的な芸術作品に触れていきたい。英仏独など各文化に固有の主張があり様式があるが、じつは「ヨーロッパ文化」という各国共通の基盤がどの国の文化においても6割程度を占めている。英語の教職を目指す学生にとっても、ヨーロッパ文化をわきまえておくことはイギリスやアメリカを理解するために必要不可欠である。

◇授業内容◇

第1回	本講座のガイダンス。受講者は本講座において何を学び、どんな課題をこなさなければならないか。 地理的に見たヨーロッパ。地球全体から見た位置、日本との位置関係、気候・風土の概説。
第2回	西欧中心のヨーロッパの歴史（1）古代～中世。
第3回	西欧中心のヨーロッパの歴史（2）近代～第2次大戦。
第4回	西欧中心のヨーロッパの風俗と芸術。
第5回	ヨーロッパの宗教。
第6回	ロシアの歴史。
第7回	ロシアの風俗と芸術。
第8回	東ヨーロッパの歴史と文化。
第9回～第15回	各回、数名の発表希望者に口頭発表をしてもらう。
第9回	第2次大戦後のヨーロッパ史。
第10回	EU（ヨーロッパ連合）成立の過程とその現状。
第11回	移民・環境などの現代の諸問題。
第12回	ヨーロッパとは何か（1）歴史の特異性。
第13回	ヨーロッパとは何か（2）物の見方。
第14回	ヨーロッパとは何か（3）民俗的風習。
第15回	まとめと補遺。
全 回	ふだん聴くチャンスのないヨーロッパ各地とその周辺地域の民俗音楽やポピュラー音楽を毎回少しずつ紹介する。

◇成績評価◇ 授業について毎回書いてもらうコメントの内容による平常点（20点満点）、口頭発表（50点満点）、レポート（50点満点）を総合して評価する。

◇使用教材◇ プリントを配布する。

◇特記事項◇ レポートについて：イギリス・ドイツ・フランスを除くヨーロッパの文化（生活・歴史・社会・芸術など）に関する本を1冊読んで、その内容を説明し、自分の意見を述べる。詳しくは、1回目の授業時に説明する。